



新年のごあいさつ

代表取締役社長
田村 順一

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。さて今期は夏の旱魃や台風22号の影響などから、サトウキビの生育、登熟に遅れが見られます。そのため年内操業は難しい所ですが、年内操業は難しい所ですが、来期に向けた植付けや管理工作を重視し、年内操業に踏み切りました。また旱魃と台風被害に関しては農家の皆様の復旧のお役に立つべく、町、JAと連携してセーフティネット基金(増産基金)の発動を国や県に強く働きかけております。

私が皆様に「徳之島の砂糖産業の再構築」を提唱して5回目の製糖を迎えます。再構築のゴールは「大きな気象災害などを受けても、20万トン以上のキビが確保できる」とです。昨期の収穫量22万トンは気象災害を受けない中で

未尾となりましたが、今年一年、皆様が健康に過ごされ、幸多幸申上げます。

本期の製糖計画

| | |
|-----------|---|
| キビ処理見込量 | 18万7,559トン |
| 製糖開始日 | 平成29年12月20日(水) |
| 年内搬入終了日 | 平成29年12月27日(水) |
| 年明け搬入開始日 | 平成30年1月8日(月) |
| 工 場 休 止 日 | 年末年始 平成29年12月28日(木) ～平成30年1月7日(日) |
| | 春植推進日 (予定) ①平成30年2月7日(水) ～平成30年2月11日(日) ②平成30年3月7日(水) ～平成30年3月11日(日) |
| キビ搬入終了予定 | 平成30年4月10日(火) |

就任のごあいさつ

常務取締役
徳之島事業本部長
新美 薫

新年、明けましておめでとうございます。昨年11月の定期株主総会並びに取締役会で徳之島事業本部長に就任いたしました、新美 薫と申します。少し、自己紹介をさせて頂きますと、私は昭和34年11月に徳島市で生まれ、大学卒業後に関西で23年間勤務し

た後、現在の三井製糖の社員となり、千葉工場とタイ国の勤務を経て今日に至っています。先、様々な課題があることを感じていますが、まずは、今製糖期を無災害、かつ高成績で乗り切り、その先の徳之島と南西糖業の発展に向け、二つ一つ課題の解決に取組んで行きたいと思っています。最後になりますが、今年一年の皆様のご多幸を心よりお祈り申します。

徳之島での生活は初めてですが、この自然豊かな地で皆さんと共に仕事ができることを楽しみにしています。この先、様々な課題があることを感じていますが、まずは、今製糖期を無災害、かつ高成績で乗り切り、その先の徳之島と南西糖業の発展に向け、二つ一つ課題の解決に取組んで行きたいと思っています。最後になりますが、今年一年の皆様のご多幸を心よりお祈り申します。

平成29／30年産サトウキビ展望



台風通過後の圃場の様子

サトウキビの生育 及び登熟状況

サトウキビの生育について7ヶ月期の干ばつが生育に影響を及ぼしたが、その前後の生育が良好だったことから昨年には及ばないものの引き続き豊作型の作柄が期待できそうです。ただし、10月末の台風22号による乱倒伏と葉部損傷による買入糖度の上昇の遅れの他、ハーベスターの収穫効率の低下さらには母茎の引抜きによる欠株などが懸念される状況です。

特に来期の単収確保に向けては欠株の対応は重要ですので、収穫後は株の萌芽の状況を確

製糖計画について

認し植え替えや補植などの必要がないかのご判断を早期にお願いします。

春植は植え付けてから収穫までの生育期間は1年しかありません。

今年は買入糖度が低く、同
収率の低下が見込まれる中で
の年内操業は会社の業績を考
えると大変厳しい状況ではあ
りましたが、農家の皆様に適期
に春植や株出管理を行い来期
の単収をしつかり確保して頂
く為に年内での操業開始を決
断致しました。

植付のコストや労力は同じなので早期の準備と適期の植付を心がけ、同じ手間で高い単収を目指しましょう。

特に来期の単収確保に向けて
は欠株の対応は重要ですので
収穫後は株の萌芽の状況を確

あわせて、年内収穫した圃場の整理を実施頂く為に平年よりも少し遅らせて1月8日から年明けの操業をスタートすることと致しました。

また、春植推進日についても2月から3月にかけて十分に期間設定し、4月の上旬までには製糖が終了できる様に計画をする予定です。今年は当初の春植予定圃場が多くあることに加え欠株の増加などにより更に廃耕圃場が拡大する恐れがあるので平年以上に春植の推進には農家の皆様と共に注力する所存です。



春植推進について

支援事業結果

植付が完了した圃場について
は生育も旺盛で管理作業も年
内で概ね終了し、あとは収穫を
待つのみという圃場が大半で
す。



9月上旬植付け圃場：伊仙町目手久

当社ではこの春についても行政などの関係機関と連携してできる限りの支援体制を構築していく所存ですので、行政の補正予算並びにセーフティーネット基金の動向や当社の支援事業などの発信情報には随時ご注視ください。

当社ではこの春についても行政などの関係機関と連携してできる限りの支援体制を構築していく所存ですので、行政の補正予算並びにセーフティーネット基金の動向や当社の支援事業などの発信情報には随時ご注視ください。

8月から9月の早い段階で



ビレットプランター特集

夏植は植え付けてしまえば、春植と比較してその後の管理作業が大幅に簡略化される上に、長期の生育期間を有することで春植えの2倍の収穫が望める「一石二鳥」の作型です。ただ、夏植えは暑くて大変と言うのが、誰しもが抱く本音の部分ではないかと思います。その様な事情を勘案した結果、種の準備から植付までの作業を機械で一貫して行うことができるビレットプランターを普及させることに行き着きました。

七

した。当社では昨年の春と夏に本格的にこの事業に取り組み、多くのデータと実績を蓄積させました。今後も継続して労働力の削減に向けた機械化を推進していきたいと思います。

発芽確保に向けた取り組み

今夏のビレットプランタ
植付圃場の発芽率調査を年末
に行いましたが概ね発芽は良
好でした。

一部の圃場では発芽不良が散見される箇所もありました
が、排水不良の圃場で植付が遅れたり、覆土が多すぎたりなど
が主な原因でした。

機械により採苗された種苗は、芽などの損傷が発生するケースがあり、手作業による採苗の場合よりも多くの苗を要することや、発芽率が若干低下したりする欠点がありますが、標準より多くの種苗を植え付けることで十分な発芽率を確保することができます。増加した種苗コストについても作業の

全茎式のプランターがまだ頼っていますが、この種苗の準備作業も最近では人手不足となりつつあります。

種苗が準備できない状況では植え付けも停滞してしまっており、当社ではハーベスターで収穫した二芽苗の供給を支援しております。

ただしこの場合は植付にこれまで以上に労力がかかります。まうことが課題でこれをもつと効率よく植え付ける体系構築がこれからは必要と考えています。

一部の農家では以前からき

労働コストを勘案すると十分
まかなうことができます。
結論としては、優良な種苗を
よく耕起された圃場に対して
8月から9月上旬の間で植え
付けた場合、順調な生育が確
保され年内には管理作業を終
えることができそうです。

今後の展開としては(有)南西
サービスなどの営農組織と連
携し、種苗専用の圃場を準備し
た上で、一括供給する体制を整
備していく必要だと考
えています。

その他機械採苗への取り組み



メーカー既製品の19PS対応の植付機



大型農家の自主開発の二芽苗植付機

（）事業を利用した取組（）

また、農家の皆様の中では植付け方法のアイディアを持つておられる方がいらっしゃれば当社としては共同開発等の協力を実施することも可能だと考えておりますので、各原料事務所などを通してお気軽にご相談ください。農家の皆様のさとうきびの将来に向けた取り組みへの支援ができれば幸甚です。

平成29年度に有南西サービ
スが当社より借り受けている
徳之島町の鶴田農場が、畑総
事業の対象となりました。平成
30年の春から31年にかけて順

徳之島のさとうきひ産業の維持拡大には不可欠と考えております。新ジャンプ会の運営等を通して、積極的に支援していきたいと思います。

(有)南西サービスでは新しい試みとして、春植種苗用として遅い植付と収穫、夏植の早い作業開始と年間作業バランスの平準化に向けて取り組んでいます。これにより休閑期に行う夏期の作業が厚くなり、切れ間の無い作業提供ができるため、年間の雇用体系を安定させることができます。



畑かん事業（鶴田農場）



シリーズ 職場紹介（清浄）



第5回目は、圧搾で搾られたジュースから不純物を取り除き、水分を蒸発させて濃縮する工程「清浄」を紹介します。サトウキビを搾ったジュースには、でんぶんやタンパク質等の有機物やミネラル分など、砂糖の結晶化を妨げる成分は化学反応により沈殿して濃縮する工程「清浄」を紹介します。

上澄み液は、4重に配置された効用缶【写真2】を通り、ボイラード作られる蒸気によって煮詰められます。この段階でジュースは約25%まで濃縮されており、次



[写真2]



[写真1]

ると砂糖の結晶化を妨げる成分は化学反応により沈殿し、上澄み液【写真1】と沈殿物に分離されます。

工程の「結晶」へ送られます。

また、分離された沈殿物【写真3】はライムケーキと呼ばれていますが、島内の堆肥センターに運ばれ、工場から搬出され、上質な堆肥づくりに役立っています。

[写真3]



この工程では石灰を用いて、不純物を取り除き、きれいなジュースをつくることが「清浄」の主な役割です。

この工程では石灰を取り除き、きれいなジュースを作つていい方になります。まずジュースを100℃～105℃位に加熱し、その後連続沈殿槽（グラフィアイヤーと呼ばれる大きなタンク）の中で消石灰と凝集剤（キトサン・カニの甲羅の主成分）を添加し混和します。す

次回は、いよいよ砂糖が結晶となつて姿を現します。濃縮されたジュースは、中で大きなタンクの中

取締役
企画経理部長
高垣 建志

新役員紹介

| | |
|----------|--------|
| 代表取締役社長 | 田村 順一 |
| 常務取締役 | 新美 薫 |
| 監査役 | 高垣 建志 |
| 取締役 | 大久 武信 |
| 取締役 | 池崎 左地夫 |
| 取締役（非常勤） | 川上 昌之 |
| 取締役（非常勤） | 伊藤 哲也 |
| 監査役（非常勤） | 益田 幸一 |
| 監査役（非常勤） | 三浦 直貴 |

なお取締役岩淵達夫、柴崎不二男並びに監査役多田啓一は本総会をもって退任いたしました。

在任中賜りましたご芳情に對し厚くお礼申し上げます。

新役員体制

昨年11月の弊社定時株主総会を経て、取締役企画経理部長に就任いたしました。

前職の農林中央金庫勤務時

代は、農業・林業・漁業に関する業務を長く担当してきました。就任後、徳之島に2回伺いましたが、至る所にサトウキビが植えられており、島の基

幹作物だと実感しました。製糖を通して島の発展に貢献できるよう、微力ではあります。が懸命に取り組んでまいりますので、よろしくお願いします。

毎日亀徳の倉庫に運ばれます。6日に一度の間隔でチャーターボート（左上…1,500トン積）に積み込まれた砂糖は、千葉・横浜・大阪・福岡の精製糖工場に送られ、様々な製品に姿を変えて皆様のお手元に届きます。（左下）



サトウキビからできた
お砂糖はどこへ??